氷と眠と幻想郷と。

あるぱか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
氷と眠と幻想郷と。

【Ｎコード】
Ｎ０９０１Ｚ

【作者名】
あるぱか

【あらすじ】
周りには真っ赤に燃える火とか火とか火。死ぬことを覚悟したが、「生きたい」の一言のせいか、目が覚めたら森の中。あと色々おかしい。
※この作品には駄文、キャラ崩壊、厨二病、その他諸々含まれています。作者はニコ厨です。
てめぇなんか大嫌いだぜ！という方は即シャットダウン、別にいいんじゃね？という方はお読み下さい。

1話　炎に包まれて。

ごぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ――

目を開けると、飛び込んでくるのは真っ赤な火。

天井の部分が崩れ、道を阻む。

やろうと思えばいけるのかもしれないが、火のせいで通れない。

殆どの人なら慌てだすだろう。

でも自分は、祈ってみる。

まだ希望はある。　…と思う。

ゆっくり、ゆっくり目を閉じて

手をぴったり合わせ

周りの火が自分を包み

真っ赤な自分になる。

誰でも思うだろう。

『死ぬのかなぁ』

体が火に包まれ、

皮膚は焦げて真っ黒になり、

髪の毛は一つも無くなり、

目から涙を流して、こういった。

「まだ生きたい。
　　生きたかった」

最後のお願いです。

どうか叶えてください。

意識がぷつんと無くなった。

目が覚めた。
何故生きてるし。

視線が低い。
え？　なにそれ怖い。

周り木や草だらけ。
近くの公園じゃね？

でも、自分の知ってる公園じゃない。

これは森だ。

……どうしよう？

1話　炎に包まれて。（後書き）

初めまして、あるぱかと申します。
この小説を読む人がいるのかとドキドキしてます。
超☆初心者なのでアドバイスや感想をくれると飛び跳ねて喜びます。
この作品は、幻想郷ができて何年かしたら他の原作とクロスしたいと思います。
今後もよろしくお願いします。

2話　驚愕する。（前書き）

休日は適当な時間に投稿すると思いますが、平日は４～５時くらいに投稿すると思います。（土、火は塾があるので遅れます）
とりあえず頑張ります。

2話　驚愕する。

さっきも聞いたと思うけど、
視線が低いんだ。
横になってないし、そこにあった岩より自分小さいし。
飛び跳ねても届かないし。
なんなんだよぅ…。
後で姿確認しないとなぁ…。
そういえば、なんで自分はここにいるんだっけ。
思い出そうと、必死に記憶を辿る。

〜〜回想〜〜

ごおおお（ry

〜〜回想終わり〜〜

そしてここに戻る…と。

おおぉ…
生きてたのか。

未練はあったけど、この世界にもパソコンがあったら…
……おっと、いけない。
つい無駄な予定表を立てるとこだった。

でも、パソコンがなかったら…

あれ？　目から汗が…

つかそろそろ体がどうなっているか見たい。

森の中を彷徨い歩き、２５分以上かかって湖を発見。

いやぁ、歩くの大変だった。
小さな足だし、体力ないから余計に疲れた。

しかも、キノコに足が生えたキモいやつがいて、
キノコが待ち伏せしてたら、栗鼠が木の実を持って木に登ろうとしてたんだ。
そしたら…

ぐちゃっ

ていう音がして、
栗鼠をキノコを食べてた。

栗鼠は暴れまわってた。

がたがたがたがたしながら、
見て見ぬふりをして、抜き足でここまでついたんだ。

まあ、過ぎたことだし、今は体確認だ！

ひょいっと湖を覗く。

「………なんじゃこりゃぁぁぁぁぁああああああああああぁぁぁああああああああ！」

そこには銀色のハリネズミが居ました。

どやっほい。

2話　驚愕する。（後書き）

話長くして欲しい！　というコメントがあったら
多分長くする……はず。
もういやだぁあ

3話　現実は。（前書き）

なんか小説が短くなってきてる…
あ、少しだけ長くしました。

3話　現実は。

前回のあらすじー

「なんじゃこりゃぁぁぁぁぁああああああああああぁぁぁぁあああああ！」

以上！

さて、さっきまでパニック状態になっていたのだが、
ウィスピーウッズの怖い版みたいな奴がこっち見て、

ギロリ

とこちらを睨んだので、
またがたがた震えながら状況確認してます。

ていうか、日本語で喋ってるように見えるけど、
きぃきぃ言ってるんだよね。
不思議！

ま、それは置いといて。

今の体は、

銀色のとげとげした針がある背中に

突きでた鼻に、丸い耳

くりくりの目…

「生きてるのは嬉しいけど、

幻想郷みたいなとこに来てハリネズミとか…」

いやだわぁ、死亡フラグびんびんじゃん…

まぁ、来たいとか言ってたんだけどね。

普通の能力とかあればいいんだけどなぁ…

んん…能力ないかな……

…だめだ。何かでできそうだけど、出ない。

「現実って、厳しいね……ん？」

がさがさっ

あれ…？

急に眠くなってき…た……

「くすくすっ。
やった！成功だー！
…それにしても、ちっさいなぁ」

『凍らせる程度の能力』

3話　現実は。（後書き）

平日は更新してない…
だめだ。続けられる気がしない。

勝手に質問をつくって答えるこーなー
Q，作者名があるぱかなのになんでハリネズミなの？
A，あるぱかって動きにくくね？
脳内で小説書いたときにハリネズミって決めてたし。
後作者自体がこの疑問にまったく気が付かなかった。

4話　名前が無い。

「ん～撫でてもいいかなぁ……
　　でも針が怖いなぁー。…よしっ！」

撫でることに決めたー！

「んしょ」

ぽすっ

自分の膝に乗せて、撫でてみる。

「…あ、大丈夫だー。
　　ふわふわー」

針が立ってないからかな？

叫び声（鳴き声？）が聞こえたからここに来たんだけど…

まさかこの子だったとはねー。

結構大きな声だねー。

びっくり！

一応能力で眠らせたけど、弱めにしたからすぐ起きるかなぁ？

「きゅぅ……」

あ…

「起きちゃったのかな？」

ん……あれ…ここ何処だろ……

「起きちゃったのかな？」

おろー？

そこには猫耳と2本の尻尾をつけたしょ…コスプレ幼女がいた。

猫又？……つかそれ以前に尻尾動いてるからコスプレじゃないし。

そもそも自分ハリネズミだし。

夢オチもあり得るけど。

夢オチがいいし、現実がいいけど。

「どうしたのー？
黙りこんでー」

おお、忘れてた。猫又（コスプレ）娘を。

「えっと……君誰？」

言葉通じるよね？　ね？　え？　やめてよそれ。

「可愛いなぁー」

駄目だこいつ……通じてｎ

「あ、んーと僕はね？ヒリネっていうんだー」

通じてたのかよ！
…ほうほう、ヒリネか。
しかも僕っ娘。いいね。

「じゃあ、君の名前はー？」

……え？

あ、名前……覚えてねぇ……

猫又娘(コスプレ)が首をかしげてるので、名前を考えてみる。

ん…？

『凍らせる程度の能力』

おお？何か能力があったのかよ…

……うん。これにしよう。

「私の名前は凍葉だよ」

4話　名前が無い。（後書き）

主人公の名前出してねえ！
という訳で出してみました。
凍雪とか考えてみたんですけど、他の方の主人公の名前と似てるので、
凍→能力から　葉→作者が秋好きだから
ということでこの名前に（、・ω・、）
感想にキャラクターの名前と説明を書いてくれましたら、
（説明を変えるかもしれないけど）一応採用させて頂きます。

5話　食べ物。（前書き）

仲間が増えるよ！やったね凍葉ち「おいやめろ」
「何一人で喋ってるのー？」
前回まで少なかった会話が増えました。わぁい。

5話　食べ物。

「凍葉ちゃん？聞いたことない名前だなー」

うん、そりゃあ誕生（？）したばかりだからね……

仕方ないね。

「……まあ、別にいいやー。
　それより、能力は持ってるー？」

いいのか。

能力……ああ、『凍らせる程度の能力』か。

そういえばさっき急に眠くなったのはヒリネの能力なのかな？

「うん。『凍らせる程度の能力』だよ」

「へー？　どうやるのー？」

あ、使ったこと無いなぁ…。

「……わかんない」

「ええ……
じゃあ、僕で実験してみるー？」
「？！　…いや、湖で実験するよ……」
「そうなのー？　わかったー」
いきなり何を言い出すんだこの子は。
一瞬目が白目になりそうだったよ。
「よいしょー。軽いねー、何食べてるのー？」
「いや、なんも食べてないけど…」
「ほう……じゃあこれあげるー」
…コオロギ？あと肉。
まだ生きてるし。わらわら動いてるし。
でも美味しそうに見える私はなんなんだ。

重症か。……ええい、頂きますっ！

ｍｇｍｇ……！？……美味しい…だと？

もっと出せぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ（以下略

～～～暫くお待ちください～～～

「凄い食べっぷりだねー。
その辺にコオロギがいて良かったー」

相変わらずガツガツコオロギを食べている凍葉ちゃんを見て言う。

「でも肉は食べないのかなー？
美味しいのにー」

「んむ……いや、美味しそうだけど…
これなんの肉？」

人肉だとでも思っているのかな？

ふふん。ならば答えてあげようー！

「熊の肉」

どうだ！　瀕死だったから眠らせて、爪でぐさっと……♪

「……ああ、うん良かった」

やっぱり勘違いしてたんだねー。

あれ？　なんか忘れてる気がするー。

……あ、能力の実験……

「それ食べ終わったら、能力使おうねー？」

「あ……」

5話　食べ物。（後書き）

ちなみに凍葉（とうは）です。
あまりのネーミングセンスのダサさに外国のキラキラネームもびっくりだよ！

ちょっとした会話

「僕のことは呼び捨てでいいよー！」

「じゃあ私も呼びすt「ダメ！」（、・ω・、）」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0901z/

氷と眠と幻想郷と。

2011年12月11日16時52分発行